

第3回神戸アニマルケア国際会議 2014

一人と動物の未来の為に

The 3rd International Conference on Animal Care in KOBE 2014
— For the Future of People and Other Animals



報道関係者各位

2014年6月17日
ICAC KOBE (アイカック神戸) 事務局

プレスリリース

公益社団法人日本獣医師会と公益社団法人 Knots は、2014年7月19、20日に神戸ポートピアホテル(神戸市)で、「第3回神戸アニマルケア国際会議 (ICAC KOBE) 2014 一人と動物の未来の為に」(参加無料/要参加登録)を共同主催いたします。より多くの皆様にご参加頂くために、貴媒体での告知および取材のお願いを致します。

様々な分野に於ける人と動物の幸せな共生を

神戸から発信します

この会議は、阪神・淡路大震災15周年を契機に、全ての動物を対象として、そのより良いケアや生息環境の保全を目指すための情報交換・新技術の創出等を議論し、人を含む世界中の動物の福祉を向上させ、以って、我々人間が果たしうる責任を広く社会に示し、幸福な人と動物との共生を更に前進させることを目的として、2年に一度開催をして参りました。

本会議は、基調講演と9つのワークショップ、大学院生によるポスターセッションで構成されています。

◎基調講演

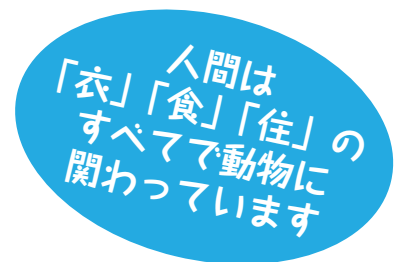
「インフルエンザウイルスの生態：鳥インフルエンザとパンデミックインフルエンザ対策のために」 喜田 宏氏

◎シンポジウム

- シンポジウム I 「身近に存在する人と動物の共通感染症」
- シンポジウム II 「動物達が開く心の扉～CAPP活動15,000回を迎えて」
- シンポジウム III 「暴力の連鎖：人間に対する暴力と動物虐待の関連性」
- シンポジウム IV 「ずっと一緒に居られる」社会へー飼い主を支えるシステムが実現する豊かな社会」
- シンポジウム V 「One World, One Health～今、北極で何が起こっているのか？～」
- シンポジウム VI 「畜産現場における野生動物被害」
- シンポジウム VII 「高度動物医療と終末期動物医療（安楽死処置を含む：平穏死について）」の現状
- シンポジウム VIII 「畜産 Now! 一食の安全と動物福祉」
- シンポジウム IX 「奈良県のいのちの教育ー子ども達へ「いのち」を伝える試み」

◎ポスターセッション

国内外 13 名が参加 《パドゥア大学 (イタリア) / 金沢大学 / 大阪府立大学 / 神戸市立須磨海浜水族園 / 帝京科学大学 / 水島中央病院 / 奈良女子大学大学院 / コロンボ大学大学院 (スリランカ)》



《お問合せ先》 ICAC KOBE (アイカック神戸) 事務局

〒650-0004 神戸市中央区中山手通 6-6-7-405 (公益社団法人 Knots 内/担当：白川)
TEL: 078-599-6663 (月～金曜日 13:00～17:00) FAX: 050-3730-0738

基調講演の喜田宏先生って どんな先生なのでしょう？

インフルエンザの疫学研究を地球規模で行い、新型ウイルスとしてパンデミックを起こす機構を実証し、世界の高病原性鳥インフルエンザとパンデミックインフルエンザ対策ならびに人獣共通感染症克服のための広範な研究を展開し、国際協力研究にも多大な貢献をされた先生です。

【喜田 宏先生プロフィール】

日本学士院 会員／北海道大学 特別教授／北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター 統括／OIE 世界鳥インフルエンザレファレンスラボラトリー長／WHO 指定人獣共通感染症対策研究協力センター長



私たちの「食の安全」について教えてください

■シンポジウム VIII

友久 健二先生（兵庫県・食肉衛生検査センター所長）

兵庫県・食肉衛生検査センターでは、消費者へ安全・安心な食肉を提供するために、県内の食肉センター及び食鳥処理場において食肉の検査や衛生指導を行っています。このシンポジウムでは、私たちの生活に密接に関係している、兵庫県のと畜場における食肉衛生検査の取り組みをお伝えします。

兵庫県で
ご活躍の
先生です



子どもと動物はどのように関わっていますか？

■シンポジウム II

山岡 幸司先生（神戸市・やまおか小児科・アレルギー科
クリニック 院長）

国内で人と暮らす犬の数はいまや 15 歳以下の子どもの数に迫ろうとしています。今日のように多くの家庭において室内で飼育されるようになって、鼻炎、結膜炎、ぜんそく、蕁麻疹などの犬に対するアレルギー症状が問題になっています。ペットと共に、子どもたちが安心して暮らす方法を考えます。

神戸で
ご活躍の
先生です



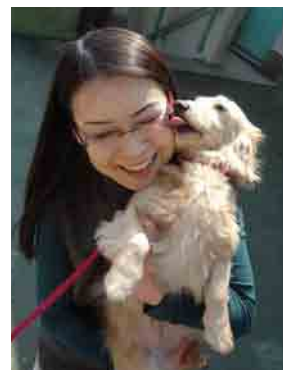
人とペットが最後まで安心して一緒に暮らせる社会にできますか？

■シンポジウム IV

湯木 麻里先生（神戸市・垂水衛生監視事務所 担当係長）

2013 年にペットを飼育している 50 歳以上を対象に行ったアンケート調査では、65 歳以上の 4 割近くが「近い将来、高齢のために世話ができなくなりそう」と回答しており、人もペットも高齢化が進んだことによる問題が今まさに起こっています。人と動物の双方にとって幸である社会を実現するためには、飼い主による自助と共助を促し、公助によりそれを補完するしくみが必要です。今まさに起きている現状をお伝えし、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

神戸で
ご活躍の
先生です



海外からはどのような先生が来られますか？

■シンポジウム II

トーマス E. カタンザーロ先生 (国際獣医コンサルティング CEO)

このシンポジウムでは、動物がいかに我々人間の気持ちを明るくし、クオリティー・オブ・ライフ (QLO) を充実させ、「今」を生きることを教え、日常生活の中で「与える関係」を築いてくれているかを説明します。

動物の存在は、人間にやすらぎを与えてくれます。そしてこれが「Human Animal Bond (HAB) (人と動物の絆)」の素晴らしいところであり、特にこのような反応は、戦場から帰還した兵士たちの PTSD の治療などに大きく役立っています。



■シンポジウム III

フィル・アーコー先生 (ナショナル・リンク・コアリッション コーディネーター)

動物虐待を、DV、児童虐待、老人虐待等とつなげる「リンク」に関する世界的な関心の高まりは、犯罪学、法執行機関、獣医学、人間医学、児童福祉、DVや動物福祉、人間福祉担当機関等々の間に知識の交流を生み出しています。

人間と動物両者に対する暴力を全体論的に見る「種の垣根を越えた」アプローチとは家庭内暴力の源を断つことであり、我々と生活を共にする動物たちに対する責任を強化することでもあり、家族の中で最も弱い立場の苦しみを取り除くことでもあるのです。



■シンポジウム V

アンドリュー・E・デロシエール先生 (アルバータ大学 教授)

北極周辺の高氷は、まさに世界で最後の野生が作り出す造形の一つですが、地球温暖化により大きな生態系の変化が起こっています。

高氷は、短命な生息環境であり、森林の土壌と同じように、北極の海域生態系に不可欠なものです。予測される高氷の損失傾向は、今世紀半ばに世界のホッキョクグマの3分の2が消失することを暗示しており、もしある動物が人間に温室効果ガスの生産を減らすよう仕向けるとしたら、それはホッキョクグマでしょう。もし、われわれが彼らを絶滅の危機から救うことができなければ、将来の世代がわれわれを厳しく批判することは間違いありません。



■シンポジウム IX

マイケル・カウフマン先生 (グリーンチムニーズ&ファーム サム&マイラ・ロス研究所 所長) & 木下美也子先生 (グリーンチムニーズ&ファーム サム&マイラ・ロス研究所 教育プログラム部長)

グリーンチムニーズ学校 (ニューヨーク) で子供たちに動物愛護教育、自然保護教育、命教育をするにあたってもっとも効果的なアプローチは、子供たちに実際に体験する機会を与える“体験教育”です。

今回の発表では、子供たちのヒューメイン教育 (人格教育、愛護教育) の長所、短所、そしてそれがもたらす機会の概要を説明した上でこのコンセプトが実際に友好的であるのか、そしてヒューメイン教育の最終的な目的は何であるかを踏まえて、この体験教育がどのように日本で適用できる、そしてされるべきかを考えます。

